

## 在留邦人B氏のモントリオール出産体験記

妊娠が分かった時、わたしは日本に一時帰国をしていました。第一子を出産したのは日本だったので、このまま滞在して出産するか、モントリオールに戻って出産するかを夫と話し合い、結局モントリオールで出産することに決めました。

モントリオールに戻ると、早速メディケアカードの登録申請をし、産院を探し始めました。その時点で妊娠十三週目。帰国中に日本の産婦人科で健診を受けて問題がなかったのと、今回は第二子で妊娠出産が全くの未体験では無かったので、然程焦りや不安はありませんでした。

日本では各自治体で妊婦への補助内容が違い、住む地域によっては補助が不十分なことも多く負担も大きいですが、モントリオールではメディケアカードを登録することで毎回の妊婦健診、出産費用の負担がほぼ無くなります。永住者ではない場合、個人で入るか家族で入るかに応じて年間の加入料金が異なります。

モントリオール市内にはいくつか大きな病院があり、わたしもその一つで出産することになりました。普段の健診は産院と提携している小さなクリニックで行い、出産そのものや血液検査、超音波健診など毎回行わない複雑な検査は総合病院で行う方式でした。

健診内容は日本と違いかなりシンプル。まず健診の頻度が少ない。そして日本では毎回のよう  
に診察内容に含まれる超音波健診は妊娠期を通して全部で二回ほどしかなく、その代わりお腹の赤ちゃんが無事であるかどうかを診るために、心音をお腹の上から確認できるコンパクトな機器がありました。血圧と体重は毎回チェックされますが、尿検査や腹囲を測ったりはありません。

例えば日本では妊娠中期以降にお腹の張りが頻繁に起こる場合、早産のリスクを抑えるために張り止めのお薬が出されたりすることがありますが、お腹の張りを訴えても「それが普通だから大丈夫」とのことで特に何もありません。

言語の問題も大きなハンディキャップであり、日本だったら簡単に質問できるようなことも伝えるのに苦労しました。わたしと違い夫は仕事柄フランス語には馴染みがあったので、健診時には毎回付き添ってもらいましたが、それでも妊娠・出産についての専門用語を理解するのは難しく常に辞書を片手に通院していました。悠長に構えていたわたしでしたが、出産が近づくにつれてこむら返りや浮腫などのマイナートラブルも増えていき、かといって特に対応してもらえるわけでもない状況だったので次第に不安が大きくなっていきました。

実際に陣痛が起こってから出産に至るまでの経緯は大体日本と一緒にだったので特に問題はありませんでした。今回は二歳になったばかりの息子がいたので、息子の世話をしてくれる人が必要になり、日本にいる義母に来てもらうことになっていました。義母が到着して三日目にタイミング良く陣痛が始まり、予定通り息子の世話を義母に任せることができたので、無事に夫の立ち会いのもとお産に臨めました。

また前回無痛分娩にしなかったことを心から後悔したので今回は無痛分娩にすると決めていました。特に何も言われずLDR室（陣痛から分娩、回復を同じ部屋で行う）に通されてしまったので言うタイミングが分からず、陣痛に少し苦しみました。途中様子を見にきた看護師さんに無痛分娩希望を伝えたところ、特別な手続きはなく割とあっさり麻酔を入れてもらうことができました。リスクは少なからずあるので一概に良いとは言いきれませんが、わたしは無痛分娩にして良かったと思います。

前回の出産は苦しくて辛くて産まれた瞬間「やりきった。やっと終わった。」という気持ちが強かったのですが、今回は出産自体がそこまで苦しくなかったので気持ちの余裕があり、産まれた時には自然と涙が溢れてしまいました。日本では無痛分娩を取り入れている病院がまだまだ少ないことと、例え無痛分娩という選択肢があったとしても出産費用が高くなることとで、二の足を踏んでしまう妊婦さんも多いかと思いますが、ここカナダでは特に高いハードルがあるわけでもなくこのような選択肢があるのは良いことだと感じました。

個人的にカルチャーショックだったのは病院食です。想像以上に質素で足りず、夫に病院近くのマクドナルドで朝食を買いに行ってもらいました。産後三十六時間で退院というのも日本からすると驚きの時間かもしれませんが、むしろ早く家に帰りたくて退院が待ち遠しかったです。

海外での出産はある意味で究極の異文化体験です。日々生活する中で経験するさまざまな事柄に海外で出産するという項目が増えることになろうとは思ってもみませんでした。こうして異国の地で無事に産まれてくれたことに感謝する毎日です。